

令和5年度第1回広島市公立大学法人評価委員会 会議要旨

1 開催日時

令和5年7月6日（木） 13:30～15:20

2 開催場所

広島市立大学サテライトキャンパス

3 出席者

(1) 委員

石田委員（委員長）、河原委員、原田委員、深井委員、深見委員

(2) 公立大学法人広島市立大学

若林理事長（学長）、田村理事（副学長）、渡辺理事（副学長）、金森理事（事務局長）、事務局次長（事）企画室長、総務室長、教務・研究支援室長、学生支援室長、社会連携センター次長

(3) 事務局

企画総務局長、行政経営部長、行政経営課長、行政経営課職員

4 議事

令和4年度における業務実績に関する評価について

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

0名

7 会議資料名

(1) 資料1 広島市公立大学法人評価委員会 委員名簿

(2) 資料2 今年度のスケジュール

(3) 資料3 評価表の様式変更について

(4) 資料4 令和4年度（2022年度）における公立大学法人広島市立大学業務実績報告書

(5) 資料5 公立大学法人広島市立大学の中長期目標期間（令和4年度から令和9年度まで）における各事業年度の業務実績の評価について

(6) 資料6 令和4年度における業務実績に関する評価表（小項目・大項目）

(7) 資料7 令和4年度における業務実績に関する評価表（全体評価）

(8) 参考資料1 公立大学法人広島市立大学の概要（令和5年度版）

(9) 参考資料2 関連法令

8 議事の概要

事務局が資料5から資料7まで、大学が資料4に基づき説明し、質疑応答を行った。

9 発言要旨

（深見委員）

- ・ 令和4年度も評価すべき実績が沢山あった。その中で、幾つか聞いてみたい。

- ・ 教育基盤センターの開設により、学生にどのような影響があるのか。

(渡辺理事)

- ・ 令和5年4月に開設した教育基盤センターの目的は、大学全体の教育の質保証である。学生が来て何かするというのではなく、新たに全学共通教育、外国語教育、教職課程などについて、全学的に教育の運営・企画、点検及び評価並びに本学が実施する特色ある教育の内容点検及び評価等の事務を行うものである。

(深見委員)

- ・ 広島出身の学生数と、そのうち広島に就職した学生数はどうか。

(若林理事長)

- ・ 大まかには、入学者全体の約6割が広島県内出身者であり、国際学部、情報科学部は約6割が広島県内出身者であり、芸術学部はそれよりも低い。
- ・ 卒業後の進路については、参考資料1 公立大学法人広島市立大学の概要（令和5年度版）にあるとおり、広島県内は4割弱である。

(渡辺理事)

- ・ 令和5年3月末卒業者のうち広島市域への就職者は、国際学部及び情報科学部が約39%、芸術学部が26%である。

(深見委員)

- ・ チャットGPTの取扱いについて学生に対しどのような説明をしているのか。

(若林理事長)

- ・ チャットGPTについては、3学部一律のルールを設けることが難しく、現段階では、積極的な利用の可否について統一的な見解は示していない。
- ・ 著作権の問題などもあることから、令和5年4月中旬に学生に対し注意喚起を行い、5月初旬に教員の指示に従い使用するよう通知した。

(河原委員)

- ・ 地域連携・社会貢献、産学官連携は随分良くなったと思う。
- ・ 科研費の申請件数や金額の大きいものが伸びていないが、どのように改善していきたいと考えているか。

(若林理事長)

- ・ 科研費に限らず、研究活性化ということを非常に大きな問題と考えており、研究分野での教員のサポートを増やしている。芸術学部もあることから、科研費に限らず、地域貢献も含めて研究活性化を行うよう考えている。ただ、科研費については、中期計画において令和9年度までに申請率を80%にするという数値目標を掲げており、今後申請率を大幅に上げていく必要があると認識している。

(田村理事)

- ・ 科研費について、昨年度から延長しているものについては、件数に含まれていない。
- ・ 大きな額の科研費を獲得していくには分野横断型の研究の推進が必要と考えており、しっかりと取り組んでいきたいと考えている。

(河原委員)

- ・ 国際学部において、教職課程新設に向け検討を始めたところがあるが、これはどのような目的か。

(理事長)

- ・ 教職課程新設の主な目的は、学生の確保である。元々国際学部には英語の教職課程があるも

の、学部としての特色を出すため、本学ならではの平和に関する知識などを有した社会科系の教師の育成に向けて、新たな教職課程の設置を検討している。

(河原委員)

- ・ 国際学研究科において、1年間で修了可能な修士カリキュラムの整備とあるが、その必要性和認定のこと（単に単位が取れば良いとするのか、2年間で修了するものを1年で修了するための要件を設けるなど）を教えて欲しい。

(若林理事長)

- ・ 大学院学則上は学位を1年で出せることになっている。国際学研究科における1年間で修了可能なカリキュラムについては、社会人学生を対象とすることを想定しており、社会での業績等を認めた上で、1年間で修了可能とすることを想定している。また、課題研究などで修士論文以外の方法でも修了が可能となるよう検討を進めている。

(深井委員)

- ・ 社会貢献できる人材に育つよう、地域貢献に係る活動に、3学部の学生が集まって行うような仕組みはないか。

(若林理事長)

- ・ 必修科目である3学部合同基礎演習において、3学部の学生で12人程度のグループをつくり、いずれかの学部の先生のゼミを半年間受講し、違う学部の先生や学生と触れ合う場を設けている。
- ・ 地域貢献については、地域課題演習において、学部に関係なく地域貢献活動を行っている。
- ・ できれば卒論位まで他学部の先生に指導してもらえようようにしたいと思っているが、現状は先程のとおりである。

(渡辺理事)

- ・ 地域課題演習は希望者のみ参加するプロジェクトであり、例えば、竹原市の竹を使用し、3学部の学生が、地域住民の方々と協力しながらモニュメントを作成するなどの活動を行っている。
- ・ 現在3、4年生が3学部合同で活動するプロジェクトがないため、全学共通教育の見直しの中で、地域課題演習について、3、4年生が実施するより大きなプロジェクトに繋げる授業形態にできないか検討を進めている。

(深井委員)

- ・ 海外では日本美術史に関心を持っている方が多いため、国際学部の学生についても日本美術史の受講を必須にしてはどうか。

(若林理事長)

- ・ 日本美術史の受講は必須とはなっていないが、本学では建学以来、文系、理系、芸術系の単位をそれぞれ取得しないと卒業できないことになっている。

(原田委員)

- ・ ハラスメント相談件数を教えて欲しい。

(金森理事)

- ・ 相談人数としては、令和4年度26名、令和3年度27名、令和2年度7名、令和元年度11名である。

(原田委員)

- ・ 令和2年度に発覚したハラスメント事案の処分が令和5年3月となったことについて、詳細

を教えてほしい。

(若林理事長)

- ・ 令和2年度にハラスメントの訴えがあり、緊急避難的な措置を行ったが、それが上手く機能せず、ハラスメント事案となり、その調査に約1年を要し、結果として処分まで時間がかかってしまった。本来は、もっと早く対応すべきであった。

(原田委員)

- ・ 公表しているのか。

(若林理事長)

- ・ 令和5年3月に公表している。

(原田委員)

- ・ 情報科学研究科における女性限定教員の公募について、応募はあったが採用に至らなかったのか。それとも応募自体がなかったのか。

(若林理事長)

- ・ 情報科学研究科の女性限定の公募には1名応募があった。他大学の情報系の学部においても女性限定で教員を公募する事例が増えており、女性教員を取り合う状態となっている。

(原田委員)

- ・ 理事の構成について、女性枠を設けないのか。

(若林理事長)

- ・ 現時点では女性の特別枠を設ける予定はない。本学は教員の中での女性割合が16%と低いことから、まずは女性教員の比率を上げていきたいと考えている。

(石田委員長)

- ・ 開学から30年となり、色々な設備更新が必要となっているということか。

(若林理事長)

- ・ そうである。

(石田委員長)

- ・ 外部資金の獲得について、科研費の申請の推進に向けて、非常に積極的な取組をしていると受け止めており、今後取組の効果が上がっていくことを期待している。
- ・ 科研費の助言のために外部専門業者を利用したとあるが、どのようなサービスを受けることができるのか。

(田村理事)

- ・ 例えば外部専門業者の方に科研費の申請書案を提示すると、内容に関する的確な助言やフォーマットエラーに関する指摘などを受けることができる。

(若林理事長)

- ・ 小規模な大学向けのビジネスと思われる。

(河原委員)

- ・ URA (University Research Administrator : 研究者とともに研究活動の企画・マネジメント等を行うことにより、研究活動の活性化、研究開発マネジメントの強化等を支える人材) を配置して、科研費の申請の助言や教員同士のマッチングなどの業務を行わせるのはどうか。

(若林理事長)

- ・ 本学は大学規模が比較的小さく、URA だけの業務で週5日勤務する必要はないと考えているため、他の公立大学とURA をシェアするなどの方法を検討している。

以上